

業務実績報告書

提出日 2020年1月5日

1. 職名・氏名 教授・木村小夜

2. 学位 学位 博士、専門分野 文学、授与機関 奈良女子大学、授与年月 1994

3. 教育活動

<p>(1)講義・演習・実験・実習</p> <p>①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 国文学 (2単位 毎年開講・福井) 1、2、3年生 (2017～9年度)</p> <p>②内容・ねらい 近代日本の代表的な小説を精読する (対象作品は年ごとに異なる。2017年度は太宰治の翻案作品読解。2018年度は芥川・宮澤賢治・小川未明など様々な作家の童話の精読。2019年度は樋口一葉「たけくらべ」の精読。作品の書かれた背景や作者についても知識を広げる。代表的な読み方を (時には複数) 提示し、鑑賞や印象批評、常識的な図式にとどまらぬ分析と解釈の方法があることを具体的に知ってもらうことがねらい。詳細は、シラバスの「授業概要・目標」参照。</p> <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 a.受講生の多少を問わず、講義が一方通行にならぬよう、数回に一度の割合で二百字程度の小課題を提出させ、次回の冒頭で紹介しつつ講義内容に組み込む。パソコンからの入力でなく手書きの提出物であるため、誤字等の指導も可能に。また課題内容は、その時間の授業全体を踏まえた上で自由な思考力を問うものを設定している。 b.大学でのノートの取り方も学んでもらいたいため、配布プリントは自発的にメモしなければ埋まらない欄を多々設けている。試験対策ともなるよう、各項目でのおさえどころを冒頭に示している。 c.指名発問を適宜行い、授業に緊張感を持たせるようにした。</p>
<p>①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 国文学史 (2単位 ほぼ毎年開講) 1、2、3年生 (2017～8年度)</p> <p>②内容・ねらい 近代日本文学の流れを辿る。主として明治以降の小説・作家についての教養を身につけると同時に、文学の範囲内にとどまらず、近代という現在の価値観の原型を形作ったとも言える時代への理解を深める。詳細は、シラバスの「授業概要・目標」参照。</p> <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 a.文学史は暗記物ではなく、時代の推移の中で理解すべきもの、との考えから、極力、文学以外のトピック (とりわけ目に見えるモノ) と結びつける内容で授業を作っている。また、作品のさわりを読み、粗筋を極力紹介。作品と作家と何々派を結びつけられれば可、というものにはしたくない。 b.板書事項は主として説明のために使用し、学生には内容に集中してもらうため、知識として必要な情報を配布プリントにまとめている。国文学・文学概論と同様、プリントは試験対策ともなるよう、各項目でのおさえどころを冒頭に示している。 c.受講生の多少を問わず、講義が一方通行にならぬよう、三回に一度くらいの割合で二百字程度の小課題を提出させ、次回の冒頭で紹介しつつ講義内容に組み込む。パソコンからの入力でなく手書きの提出物であるため、誤字等の指導も可能に。また課題内容は、その時間の授業全体を踏まえた上で自由な思考力を問うものを設定している。 d.作家の著述へのイメージを広げるため、随時視覚教材を使用。</p>
<p>①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 文学概論 (2単位 毎年開講) 1、2、3年生 (2017～9年度)</p>

②内容・ねらい

いくつもの文学作品に共通して表れる様々な対比や世界間の越境など、作品に組み込まれている装置や普遍的な主題について講述する。ここ数年間は話題を絞り、小説が書かれていく過程と密接に関わる「告白」をめぐって、日記や手紙などの観点から、様々な作家や文章を引き合いに出して考察を深める授業をしている。詳細は、シラバスの「授業概要・目標」参照。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

a.講義が一方通行にならぬよう、三回に一度くらいの割合で二百字程度の小課題を提出させ、次回の冒頭でそれを紹介しつつ講義内容に組み込む。パソコンからの入力でなく手書きの提出物であるため、誤字の指導も可能に。また課題内容は、その時間の授業全体を踏まえた上で自由な思考力を問うものを設定している。

b.プリントは国文学とは異なり、授業中は理解に集中して欲しいと考え、講義内容を後で再現出来るようなものを作成。試験対策ともなるよう、各項目での要点を冒頭に示す。

c.作家の生い立ちや作品へのイメージを広げるため、随時視覚教材を使用。また精読を必要とする箇所については朗読を聴かせる。

d.授業中盤での息抜きとして、昔のヒットソングを聴かせる。歌詞を配布し、解釈や時代背景説明を行い、関連する小説などを紹介する。

①担当科目名（単位数）主たる配当年次等

国文学特殊講義（2単位 数年ごとに開講）2年生（2017年度）

②内容・ねらい

上回生向けに、作品のより高度で詳細な解説に踏み込んでもらうことがねらい。具体的には、日本近代文学研究上、代表的な作品解釈論争を紹介し、自身の解釈と照らし合わせ、レポート執筆で総括とした。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

a.受講者は少数であったため、一方的な講義にとどめず、指名発問を頻繁に行った。

b.熟読を必要とする箇所は、朗読を聴かせた。

c.現代における作品受容の一面を知ってもらうため、扱った作品を原作とした映画を鑑賞。論争に関わる部分の解釈が映画にも反映されていることがわかり、有意義であった。

d.受講者（全八名）の半分が聴講生という特殊な授業環境となった。特に支障はなく、むしろ今回は受講者全体が活性化し、よい方向に結果が出たが、常にこうなるとも限らない。この科目についての聴講生受入については検討の余地がある。

①担当科目名（単位数）主たる配当年次等

現代人権論（2単位）1年生（2017～9年度）

研究の世界（2単位）1年生（2017～9年度）

②内容・ねらい

以上二科目はオムニバス形式。各教員が専門領域を生かして、一つのテーマについて一回ずつ講述。前者は北條民雄の作品を題材としてハンセン病患者隔離政策をめぐる歴史を扱い、後者は自分の研究に関して、選択の動機や面白いと感じていることを、具体的な作品読解を通して講述。

③講義上の工夫

いずれも受講者は大人数で一回限りの授業であるため、詳細なプリントを用意。共に、書画カメラ（視覚教材）を援用。最後に全体のまとめとなる具体的な課題を出し、二百字で解答させた。

①担当科目名（単位数）主たる配当年次等

導入ゼミ（1単位 毎年開講）1年生（2017～9年度）

「文芸作品との対話」

②内容・ねらい

読む・書く・話す・聞くことに重点を置き、短篇小説の読解を深める。選んだ作品についてレジメを作って発表し、意見を述べる。小説を素材として大学での勉強の基本的姿勢を身につけることが主目的。テキストは、自由に選択させた。詳細は、シラバスの「授業概要・目標」参照。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- a. 学生のモチベーションを優先すべく、発表の題材となる作品、レポート課題は自発的に選ばせている。
- b. レジメ作成・これに基づく口頭発表・質疑という演習の基本を習得させるため、作品への着眼点などを最初の授業で講述した上で、教員がまず発表のデモンストレーションを行う。
- c. 自分で問題点を見つけるという大学での勉強の姿勢と高校までの（とりわけ受験国語的）受動的な勉強との違いを示し、後者からの脱却を図っている。レジメ作成と発表については、時間外の個別指導を行い、ゼミの時間が有意義に使えるように努めている。
- d. 最初の段階は特に場が硬直しがちなので、発言しやすい雰囲気をつくるため、折に触れてゲーム的要素を取り入れる、自由討論の時間を合間に挟む、など種々の改善に努めている。
- e. 発表に際しては、聴く側にも一定の緊張感を持たせるため、記述欄を含む評価表を配布し、相互評価を行わせた。評価は回収し、無記名で発表者にも提示する。
- f. 後半では、レポートの書き方（構想・推敲の具体的スケジュール・提出方法も含む）を指導し、提出物には加朱して返却。合評により、書かれたものを通して受講生相互のコミュニケーションを図っている。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
教養ゼミ（1単位 毎年開講）1年生（2017～9年度）
「短篇小説を読む」

②内容・ねらい

森見登美彦『新釈 走れメロス 他四編』の各編について原典と比較しながら精読する。全体で議論の後、発表・質疑へと進める。導入ゼミに引き続き、自発的な問題点の発見と表現力を培うことがねらい。詳細は、シラバスの「授業概要・目標」参照

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- a. 導入ゼミa.b.c.dに同じ。
- b. 説明的文章、いわゆるレポートを書く機会は他分野でも多いので、ここでは扱った作家と同じような流儀でパロディを書くことを試みた。授業での作品理解の深まりが実作の内容にまで表れ、書いた本人が意識しなかったことを読み取る学生もいるなど、書かれたものと書き手の関係もかいま見える。学生相互の刺激にもなり、興味深い展開になることが多い。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
学術ゼミ（2単位 毎年開講）2、3、4年生（2017～9年度、19年度は小浜でも開講）

②内容・ねらい

小説に関心を持つ学生を対象に、日本近代あるいは海外の代表的な作品（短・中篇）を精読し、発表と議論を行う。基本的に半年間、同じ作家の作品を扱う。所属学科で学ぶ内容とはまったく別の対象、ものの見方によって視野を広げ、小説解釈の深い世界に踏み込むことがねらい。詳細は、シラバスの「授業概要・目標」参照。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- a. モチベーションは高いが、同時に専門の実習や就職活動が忙しい受講生ばかりなので、ゼミ初回に関心のありかや希望を聞き、半年間の予定には変更も可能なよう、融通を持たせている。
- b. レポートには加朱し、返却（少人数であるため、かなりきめ細かな指導が可能）。

(2) 非常勤講師担当科目

①担当科目名（単位数） 開講学校名

言語と表現（2単位） 敦賀市立看護大学（2017～9年度）
②内容・ねらい 本学開講科目・文学概論と同じ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 授業が一方的にならぬよう、指名発問の他、毎回の終わりに小課題を課し、授業ごとの中心課題を自分で考えさせ、次回の授業で講評、学生の意見を取り入れる方向で次の内容につなぐよう努めた。2コマ連続授業なので、授業の合間に昔のヒットソングを聴かせて歌詞の解釈をする息抜きの時間を設けている。少人数であったため、半ばゼミのような形式で学生の積極的な質問に答える形で授業を進めることが出来た。
④本学における業務との関連性 本学の国文学や文学概論でも取り扱う授業内容だが、とりわけ看護が人の心や言葉、多様な生き方への深い理解を求められる職であることを念頭に、重点の置き方をやや変えて講述した。
①担当科目名（単位数） 開講学校名 放送大学福井学習センター 専門科目：人間と文化「太宰治作品と手紙」（2017年度）、「太宰と西鶴ーパロディの創り方ー」（2019年度）（2単位集中）
②内容・ねらい 本学文学概論の一部・国文学と同じ。
③講義上の工夫 同上
④本学における業務との関連性 本学の文学概論・国文学でも扱う内容だが、年齢層が幅広く、普段単独で学んでいる受講者の期待に沿えるよう、頻繁な指名発問、講師との対話、グループ討議などを盛り込んだ。
(3)その他の教育活動 演劇部、文芸部、日本遊技振興会、よっしゃこい、競技かるたサークル顧問（2017年度学生表彰に推薦）。必要に応じて相談に乗っている。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文 「異形の兄姉・饒舌な弟妹—江戸川乱歩「押絵と旅する男」と岩井志麻子「ぼっけえ、きょうてえ」を併せ読む—」『福井県立大学論集』50、2018.8
②著書 『ままならぬ人生—短篇の扉を開く—』（2018・8、濤標）
③学会報告等
④ その他の公表実績 ・ 論評・解説 「迷走する「共通テスト」、記述式見送りだけでは解決しない「国語」問題—〈志〉の身ぶりとその内実—」（『現代ビジネス』オンライン、2019. 12. 24、講談社） ・ 事典項目 『三十すぎのぼたん雪』所収全作品『田辺聖子文学事典』2017. 10、和泉書院
(2)学会活動等

学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など
日本近代文学学会評議員（2016～継続）
学会・分科会の開催運営
(3)研究会活動等
① その他の研究活動参加
② その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
県立大学個人研究推進支援（出版）（2018）
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井県ふるさと文学館資料評価会議（2018） 野の花文化賞選考委員会（2018～） 共同会派文部科学部会・合同ヒアリング出席（2019.11.5） 第200回参議院文教科学委員会・参考人招致（2019.11.19）
②国・地方公共団体等の調査受託等
③（公益性の強い）NPO・NGO法人への参加 若州一滴文庫「拝啓 水上勉様」審査委員（2019.9～10）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 ・ふくいCOC+5大学連携事業・高大接続・高大連携・入試改革WG委員（2017）
⑥その他 ・佐保会（奈良女子大学同窓会）滋賀支部総会講演「太宰治風アレンジとは？―「葉桜と魔笛」を読み直す―」（2017.6.4、琵琶湖ホテル）
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講 ・「なぜ今も〈太宰治なの）か―作品から問い直す―」（2018.11.4、県立大学公開講座） ・「短篇小説の楽しみ―森鷗外「高瀬舟」を読み解く―」（2019.6.4、鯖江市文化の館）
② 社会人・高校生向けの講座
③ その他
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）
FM福井「空飛ぶ文庫」ゲスト出演（2017.3.7.8.11、2018.1.4.7.11、2019.3）（通算34回） 「共通テスト「国語」における記述問題の導入中止を求める緊急声明」発起人（2019.12～）

6. 大学の管理・運営

(1) 役職 (副学長、部局長、学科長)
(2) 委員会・チーム活動
論集編集委員会委員、2017～8年度 (2018・委員長) 入試制度検討委員会委員、2017～9年度 公開講座企画WGメンバー、2019～ 学術教養センター研究委員会委員、2017～9年度
(3) 学内行事への参加
(4) その他、自発的活動など